



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

◆特集◆ 1年間のまとめ（振り返り）と来年度に向けて！

学年末が近づいてきました。今一度、子どもたちの学習状況の実態や課題を把握しましょう。そして、ワークシート等「3点セット」を活用して「1年間のまとめ」に取り組み、来年度へとつなげていきましょう。

● 平成 27 年度第 1 回「みえスタディ・チェック」の結果分析 算数・数学編 ●

		小学校		中学校	
		4年生	5年生	1年生	2年生
算 数 ・ 数 学	県平均 正答率	53.0%	53.1%	57.4%	57.5%
	県平均 無解答率	7.6%	3.6%	7.0%	9.1%
	結果から みえてきた 課題	計算のきまりをとらえ、異なる数値の 計算の工夫 を表現すること。	図形の性質をもとに、2つの図形から片方の図形の長さを求める 方法を表現 すること。	ある規則に従って並べた数について予想された事柄をよみ、考察の対象を捉え、事柄が成り立つ 理由を説明 すること。	示された事象を理想化・単純化して考え、これまで既習の公式等を活用し、その結果を 数学的な表現 を用いて説明すること。
	学習に当たって	①一つの数をほかの数の積としてみるなど、目的に応じて数を多面的にみるができるようにする。 ②他者の考えを解釈し、異なる数値の場合でも他者の考えを基に説明できるようにする。	①図形の性質を理解し、日常生活の問題解決に活用できるようにする。	①予想した事柄を別の場合で確かめることを大切に する。 ②他者の考えを解釈し、異なる数値の場合でも他者の考えを基に説明できるようにする。	①日常的な事象を理想化・単純化して、問題解決に数学を活用できるようにする。
	全国学調の 問題	H26 B1 (2)	H22 B2 (1)	H26 B2	H25 B6 (3)
	みえスタディ・ チェック 3点セット	平成 26 年度 小3 10月 3 小4 11月 1 (2)	3点セットを 活用しましょう！	平成 26 年度 小4 7月 5 (2)	平成 26 年度 中1 7月 4 (3)
	ワークシート	・H19～26年度全国学調より作成したワークシート「計算のきまり」 ・第2学年 A 数と計算「いろいろな方法で答えを見つけよう」	第4学年 B 量と測定「正方形の面積は？」	第5学年 D 数量関係「表にして考えよう」	・H19～26年度全国学調より作成したワークシート「基石の総数(数と式)」 ・第1学年 A 数と式文字を用いた式「基石の数について考えよう」

ワークシートには、各教科の領域・内容、単元等に対応しているものや、全国学力・学習状況調査の三重県の結果から明らかになった課題を改善するためのものがあります。それぞれの学校の児童生徒の実態にに応じ、日々の授業や家庭学習、長期休業中の課題（宿題）などで活用してください。

●● 第2回「みえスタディ・チェック」を実施しました ●●

県内公立小学校5年生と公立中学校2年生を対象に、2月3日（水）、第2回「みえスタディ・チェック（国語、算数・数学）」を実施しました。自校採点を通して、児童生徒の学習内容の定着状況を早期に把握し、授業改善に役立ててください。

学力向上 に向けた

具体的な実践事例

【事例 13】茨城県小美玉市立羽鳥小学校

本年度の全国学力・学習状況調査結果の分析報告書では紹介できなかった県外の先進事例を紹介いたします！



算数での学び合い活動を通して 考えを論理的に表現する力を育む



「答えは出せるけれど、自分の思考の過程を説明することができない」という課題を抱えていました。そこで、算数を中心に学び合い活動を取り入れ、お互いに考えを伝え合う指導に力を入れてきました。授業改善に伴って、子どもたちが自分の考えを積極的に表現できるようになってきています。

取組のねらい

- **学び合いを通じて 自分の考えを伝える力を育む**
 - ・ **筋道を立てて考え、表現する能力を育てる** → 自分の考えを話したり書いたりする力 UP!
 - ↑ 重ね合わせ、同時に高める指導! ↑



- » 思考の過程をノートにまとめる
- » 考えを深める
- » すぐに諦めず熟考する
- » 発表して伝える

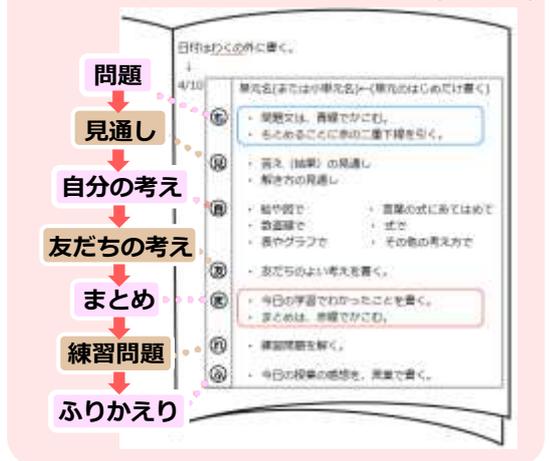
取組の内容

- **学習形態を統一し、基礎・基本の定着を図る**
 - ・ 基礎・基本の定着に向けて → 家庭学習や計算練習を充実
 - ・ 基本的な学習形態の統一 → 「羽鳥スタイル」

主体的に学ぶ
姿勢の育成

- 問題解決のプロセスの明確化
- 全教科・全担任・全学年で実施
- 毎年、子どもの実態に合わせて改善
- 指導形態の工夫
学年や単元に応じて、チーム・ティーチングや習熟度別指導を実施

「羽鳥スタイル」による算数ノートの使い方(5・6年生)



- **段階的に学び合いを深め 思考と表現を広げていく**
 - ・ **学び合いの過程**の設定

① 個人学習

時間を十分に取って、自力解決に取り組ませる

自分の考えをしっかり持ち、自信を持って学び合いに臨ませる

② ペア学習

自分の考えを相手に伝える

自分の考えを明確にさせる

③ グループ学習

共通点や相違点を探り、妥当性、効率性を話し合う

友だちの考えを聞き取り、比較させる

④ 全体学習

自分の考えを深め、訂正・追加する

学び合いに全員参加させる

取組の成果

- **型から発展させ、自分の言葉で表現する子どもを育てたい**
 - ・ 子どもたちの**表現する力や姿勢 UP!!**
つなぎ言葉を使って、根拠を論理的に説明できる算数以外の教科でも、自然な話し合いによって学びを深め合う自分の考えや気持ちを相手に伝えようとする態度を育む

友だちに教えたり、教えられたりすることが「喜びに満ちた体験」だと実感!

普段の生活でも友だちを思いやり、優しい言葉をかけるなど人間関係にも好影響!

学び合いの「型」から一歩進み、自分の考えを自分の言葉で表現できる子どもを増やす!



体力向上 に向けた

健やかな体づくり ～体力向上、運動能力向上をめざして～

東員町立城山小学校



継続的・計画的にねらいをもった実践

学校全体で児童の運動能力の弱みを把握し、克服する取組

仲間と共に運動することの楽しさや心地よさを感じさせる実践



授業での取組

● 授業や日常の遊びを通じた基礎体力向上 ●

- 体力テストの結果を活用した授業の工夫改善や体育的行事の見直し
- 運動量の確保、友達と共に運動することの楽しさ・心地よさを感じさせることを意識した授業展開
- 授業の始まりに、全学年サーキットトレーニングの実施
- 各学年の発達段階に合わせた体づくりチェック表づくり

(備考) H27 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「児童質問紙」の結果
「ふだんの体育の授業では、授業の始めに授業の目標が示されていますか。」
「示されている」+「ときどき示されている」➡ 男女とも100%



学校全体の取組

● 縦割り班・通学団遊びを通じた集団遊び ●

- 毎週火曜・木曜の朝の時間
「跳ぶ」「走る」「投げる」を意識した計画
- 運動会「縦割り競技」(8の字跳び)
7月から9月末までの取組

家庭との連携

● 保護者と連携した基本的な生活習慣づくり ●

- 学期に一度、一週間の生活点検 **6項目**

早寝

早起き

朝ごはん

メディア
時間

体の調子

歯みがき

東員町全体の取組

● 東員なわとび検定 ● ～ 東員町16年一貫教育プランの取組の一つ ～

- 東員なわとび検定カードの1級(低・中・高の3枚)を目指して、
いろいろな跳び方にチャレンジ【各学年とも1級クリアーで認定書発行】
- 地域ボランティアの方に跳ぶ回数を数えてもらう活動を設定
【2月第二週 休み時間等/多くの「数えボラ」の方が来校】
- 縦割り活動への位置づけ【12月～1月 朝の時間】
【異年齢集団でレベル向上 & 高学年が跳び方の伝授等を目指す】

意欲の向上
地域との連携

● 保護者の声 ●

- ・ゲーム遊びが減って、外遊びが増えた。
- ・早く起きたときは機嫌もよく、頭も活発になる。



●● 東員町立城山小学校長のコメント ●●

私たちは平成27年度の重要課題として「学力の向上」と「自主性の育成」を掲げ、全教職員が一丸となり、子どもたち一人ひとりの自己実現を目指しています。特に、朝学習から授業スタイル・授業規律の徹底、児童会の企画運営による全校活動等を推進する中で、**子どもたちの笑顔や意欲がいっぱい**の場面に出会っています。

一方、日々の校庭には、朝の縦割り班や通学団活動に心を合わせる姿や休み時間等には運動場を駆け回る姿、運動会での8の字跳び競技に向け力を合わせる全校児童の姿、東員町16年一環教育プランの「東員なわとび検定」に向けなわとびに励む姿など、「**子どもたちが『体を動かす姿』がいっぱい**」の光景があります。

子どもたちの成長に働き甲斐を抱く我が教職員集団は今後も、児童の「知・徳・体のバランスの取れた人間育成」、そして、「子ども・保護者・地域の方々が誇れる城山小学校づくり」に邁進して参ります。

若手教員の授業力向上をめざして！！ ～ 授業実践研修の取組から ～

研修担当では、経験年数の異なる教員（初任者研修および教職6年次研修、教職経験11年次研修の受講者：合計969人※1）を校種・教科別に109の研修班に分け、授業研究を通して継続的な相互研鑽による授業改善を図るとともに、授業力の向上をめざして、年4回にわたる「授業実践研修」を実施しています。各研修班には、研修主事等がチューターとしてつき、研修の運営・指導助言を行っています。

※1 平成27年度受講者数

7～8月

授業実践研修1 校種別研修 & 研修班別研修

- オリエンテーション
「目標（めあて・ねらい）の提示」と「振り返る活動」の充実について
- 授業づくりに関する講義（校種別研修）
- 授業研究（研修班別研修）
ビデオによる授業公開+ワークショップ型の授業研究（事後協議）
- 研修班の研修テーマの決定と研修計画の作成
ex 学力向上を図るために聞く力・話す力・考える力を生徒につけさせる



9～12月

授業実践研修2、3 授業公開実施校において研修班別研修

教職6年次研修または教職経験11年次研修受講者による

- 授業公開
- ビデオによる授業公開 + ワークショップ型の授業研究（事後協議）

初任者研修対象者による

- 実践報告+班のメンバーからのアドバイス

★ 協議のポイント ★

- 研修テーマと関わって
- 指導について・児童生徒の様子
- めあての提示と振り返る活動

1～2月

授業実践研修4 授業公開実施校において異校種合同班研修

教職6年次研修または教職経験11年次研修受講者による

- 授業公開+ワークショップ型の授業研究（事後協議）
異校種の実践からの気づきを自らの取組に生かす
- 授業づくりに特化した講義・演習
大学教授等、スペシャリストに学ぶ

例えば・・・
合同国語班

↓
小学校国語 1班
中学校国語 1班
高校国語 1班

● ● 受講者から ● ●

- ◆ 先輩の先生の授業を見せてもらい、教材解釈や指導方法等たくさんのことを学ばせてもらいました。明日からまた頑張ろうという気持ちになりました。（初任者）
- ◆ 初任者、6年次、11年次とそれぞれの役割や働き、立場は違うけれど、同じテーマで研修できたことは大変意義があると感じました。（6年次）
- ◆ 経験年数の異なるメンバー、異なる地域・校種での授業実践には、新鮮な指摘、視点、考え、授業法があり、とても勉強になりました。（11年次）



● ● 授業実践研修担当者から ● ●

今年度も、授業力の向上をめざし、初任者、教職6年次、教職経験11年次の教員が研修班単位で授業研究を進めてきました。授業公開をもとに協議を重ねる中で、課題を明らかにし具体的な改善策を考え合いました。経験年数の違う教員や異校種の教員にアドバイスをもらうことで、新たな気づきを得て、さらなる授業改善に取り組むことが、子どもたちの学力向上につながっていくと考えています。